

REFILLO[®]mat

レフィーロマット

取扱説明書



安全注意事項

- 本製品を初めて使用する際は必ず取扱説明書を読み、理解した上で作業を始めて下さい。
- 作業する際は安全ゴーグル等の目の保護防具を着用して下さい。
- 作業場は十分に明るくし、レフィーロマットシステム周辺の障害物等を片付けて下さい。
- 作業に適した服装をして作業して下さい。
- 作業する際は無理のない姿勢や体勢で作業して下さい。
- スプレー缶への液剤充填以外の目的には使用しないで下さい。
- 充填作業は必ず両手で行って下さい。



警告

- このレフィーロマットシステム（ステーションとスプレー缶）は指定された液剤の使用を前提として開発・試験を行っているため、指定液剤以外の充填はできません。
- 本システムを指定液剤以外の充填に使用し機器の故障や作業上の事故などの支障が発生しても、弊社は一切責任を負いません。このような事例が発生した場合、レンタル契約期間途中でであっても貸与しているステーションを回収する事があります。またこの場合、故障・破損等の原状回復にかかる分解整備、修理、部品代等の費用はお客様のご負担となります。
- ステーションおよびスプレー缶の分解・加工・修理等は弊社の指示なく行わないで下さい。
- 静電気防止のため、レフィーロマットと建物間の電位補正（アース設置による接地）を適切に行って下さい。

特長

- レフィーロマットシステムは指定液剤の全自動充填システム（特許取得済み）です。従来の充填式の商品では液剤を入れてからエアを充填しますが、本システムはスプレー缶をステーションにセットするだけで最適な配分で液剤とエアが同時に充填されます。充填は約7秒で完了します。
- スプレー缶本体（耐圧容器）は正常な使用条件において15000回以上の充填に耐えられます。
- 使用中にエアが先に無くなってもエアのみを再充填することができます。
- 液剤を余すことなく使い切るため、ムダが出ず経済的にお使い頂けます。
- 本システムは詰替え式のスプレー缶を使うため、産廃ゴミを大幅に削減できます。

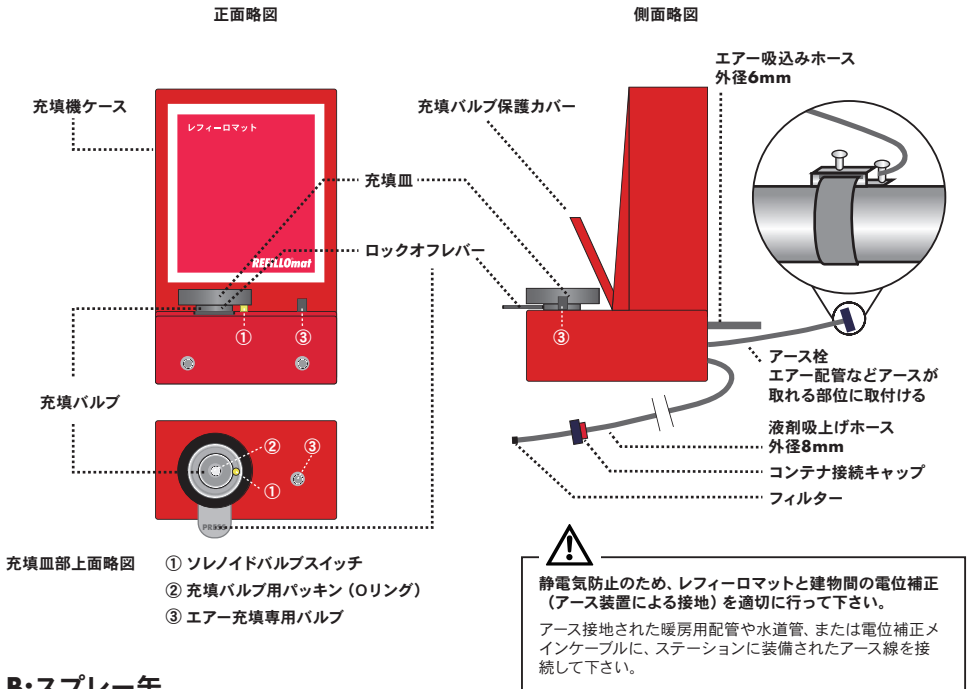
使用方法：A.ステーションの設置、使用準備

- ステーションは平坦かつ充填作業に支障のない場所に設置して下さい。
- コンプレッサーからのエアは、専用配管（ホース）から供給できるよう準備して下さい。
- コンプレッサーからの供給エア圧は0.8～1.5Mpa未満が最適です。0.6Mpa以下、1.5Mpa以上の供給エア圧では正常に作動しません。
- エア供給ホースはステーションのエア導入部のカプラに確実に接続して下さい。
- 液剤コンテナのキャップを開け、液剤吸上げホースの先端が液剤コンテナの底に軽く触れるまで差し入れて下さい。コンテナ接続キャップは液剤コンテナのネジ山に確実に固定して下さい。液剤コンテナによってはアダプタを使用して下さい。

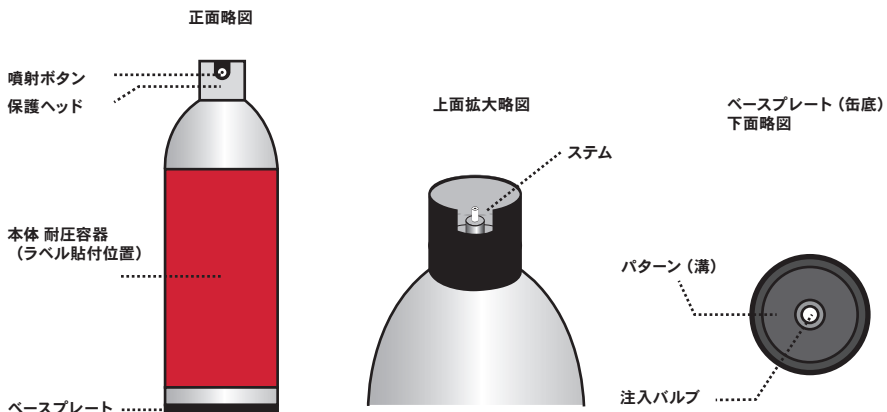
※2台以上のステーションを使用している場合は、各ステーションの液剤吸上げホースが正しい液剤コンテナと接続されているか、必ず確認して下さい。

各部名称

A:ステーション本体



B:スプレー缶



商品名: レフィーロmat用BC缶 ベーシック
品番: 0891 881 1

使用方法：B.スプレー缶への液剤充填

1: スプレー缶の準備

- a. 充填するスプレー缶が空であることを確認して下さい。液剤が残っている場合、後述第5項「エアのみの充填について」の方法でエアを充填した後、中身を使い切して下さい。
- b. 缶底（ベースプレート）の注入バルブ中央部をマイナスドライバー等で押し込み残圧を抜いて下さい。その際、スプレー缶内に残った液剤が飛び出しますので、必ずスプレー缶を上下逆さにし、スプレー缶の底部が上を向く状態にして作業して下さい。またバルブ内に残った液剤が飛び散ることがありますので、バルブに顔を近づけたりものぞき込んだりしないで下さい。

※充填前には必ずスプレー缶内の残圧を抜いて下さい。スプレー缶内に液剤が残っていたり残圧がある状態で充填しようとすると、液剤が入り過ぎたり噴射圧が弱くなることがあり、故障の原因となります。

2: ステーションの準備 (エア抜き、液剤充填)

- c. ステーション導入後および液剤コンテナ交換後の初回使用時、ステーション内部にはエアのみが充填されている状態となっていますので、以下の順番でエアを抜き液剤を充填して下さい。
- d. 空のスプレー缶をステーションの充填皿に垂直に立て、両手で下へ押し込むと缶がロックされます。力を入れて強く押し込む必要はありません。※スプレー缶の固定、解除、ロック作業は両手で確実に行ってください。
- e. スプレー缶が正しくロックされると自動的に充填が始まります。充填音が聞こえたらスプレー缶から手を離して下さい。6～7秒後充填音が止まり、充填が完了します。
- f. ロックオフレバーを下げ、スプレー缶を取り外して下さい。ロックが固い場合でも缶をゆすったり回転させたりせず、ロックオフレバーを確実に下げて取り外して下さい。
- g. 取り外したスプレー缶を振り、液剤が充填されていないことを確認して下さい。スプレー缶内部のエアを抜いた後（前述b）、d～gの工程を1～2回繰り返し、ステーション内部のエアを抜いた後に液剤を充填させて下さい。

※液剤がスプレー缶内の半分まで充填された場合は、再充填しないでその状態で使用して下さい。

3: スプレー缶への液剤充填

前項aとbの手順でスプレー缶へ、エアと液剤を充填して下さい。

※複数のスプレー缶に連続して充填する際は、ロックを外した後10秒以上間隔をおいてから、次の缶に充填して下さい。

4: スプレーする液剤についての注意事項

スプレーの液剤の使用方法是、各液剤の取扱説明書に従って下さい。

5: エアのみの充填について

スプレー缶の使用中に噴射圧が足りなくなった場合は、エアのみの充填が行えます。ステーションのエア充填専用バルブにスプレー缶底の注入バルブを垂直に2～3秒間押し込み、エアのみを充填して下さい。

6: 注意事項

2台以上のステーションを使用する場合は、液剤コンテナの交換時、ステーションおよびスプレー缶への充填時に液剤の種類を確認し、ステーションとスプレー缶の組み合わせを間違えないで下さい。またステーションおよびスプレー缶には指定した液剤のみを使用し、他の液剤を充填しないで下さい。

使用方法：C.スプレー缶使用時の注意事項

- スプレー缶上部の保護ヘッド（黒色の部品）は外さないで下さい。故障の原因となります。
- スプレー缶の落下等により保護ヘッドが外れた場合、缶上部に傷、変形、破損がないことを確認して下さい。何らかの損傷が認められる際は使用を中止して下さい。
- 落下等によりスプレー缶本体のへこみ、ベースプレートの変形、破損などが発生した場合は使用を中止して下さい。
- ベースプレートのパターン（溝）にゴミ、小石などの異物をはさまないで下さい。充填時にロックしない、外れにくい等の原因となります。これらの状況が発生した場合はベースプレートを掃除して下さい。
- ベースプレートを無理に回転させないで下さい。万ーガタツキなどの症状が発生した場合、そのスプレー缶は使用しないで下さい。
- ベースプレートの注入バルブには物をぶつけないで下さい。また汚したりゴミなどが入らないようにして下さい。
- スプレー缶の噴射ボタンと噴射バルブは、使用頻度によって消耗することがあります。

※ 噴射ボタン周辺に液剤がにじみ出た場合⇒噴射ボタンを交換して下さい。

※ 噴射ボタンを交換しても直らない場合⇒その缶の使用を中止し交換して下さい。

メンテナンス

本システムを正常に作動させ安全に使用するために、以下のメンテナンスを行って下さい。

1: 充填皿周辺のクリーニング

- 充填皿周辺（特に充填皿中央の充填バルブ）を常にきれいな状態に保つため、充填作業の終了後は、充填バルブ保護カバーを閉じて下さい。汚れたままの状態で充填を繰り返すと、スプレー缶内およびステーション内部への異物混入や作動不良の原因、充填バルブ（スプレー缶ロック機能）の作動不良、故障の原因となります。汚れはエアブローにて除去して下さい。

2: スプレー缶の保守

- ベースプレートは常にきれいな状態に保って下さい。汚れたままの状態で充填を繰り返すとスプレー缶内への異物混入や作動不良の原因、充填バルブ（スプレー缶ロック機能）の作動不良の原因となります。
- スプレー缶の噴射ボタンと噴射バルブは、使用頻度によって消耗することがあります。

※ 噴射ボタン周辺に液剤がにじみ出た場合⇒噴射ボタンを交換して下さい。

※ 噴射ボタンを交換しても直らない場合⇒そのスプレー缶の使用を中止し交換して下さい。

※ 消耗したステムは修理可能です。（有償）

3: パッキンの定期交換

- 充填バルブおよびエア充填専用バルブの内部にはめ込まれているパッキン（Oリング）は、消耗品のため定期交換の必要があります。特に充填バルブのパッキンは液剤と圧縮エア圧両方の負荷がかかるため、使用頻度に比例して消耗劣化します。充填バルブのパッキンは約1ヶ月毎、充填専用バルブは約6ヶ月から1年毎を目安として交換して下さい。パッキンは別売りの「パッキン交換キット」で簡単に交換できます。交換せず放置した場合、充填皿の上および下へ液剤がにじみ出る、もしくは漏れ出す恐れがあります。

メンテナンス：パッキン交換キットの使用法

○リングメンテナンスキット 品番. 0891 870 100

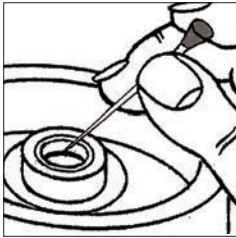
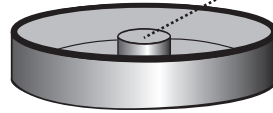
内容：

マチ針×3本、プラスチックビス×3本、交換用パッキン×10個

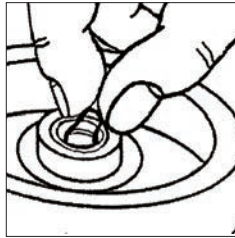
作業手順：

充填皿中央の金属部品が充填バルブです。この充填バルブ内部にはめ込まれているパッキン（○リング）を交換します。

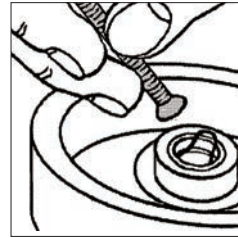
充填皿の中央が充填バルブ



① 消耗したパッキンを取り出す
パッキンにマチ針を斜めにしっかりと突き刺し、手前方向にひねるように取り出します。取り出し後は必ずエアブローをして、ゴミなどを除去して下さい。ちぎれた場合にはカスや破片をマチ針、エアブローなどで確実に除去して下さい。



② 新しいパッキンの溝への入れ込み
新しいパッキンを指でつまんで幅を狭めて“R”をつけ、溝に沿って半分程度入れ込みます。



③ 新しいパッキンのはめ込み
次にプラスチックビスの頭を利用してパッキンを押し込み、傷つけないように溝に確実にはめ込みます。

トラブルシューティング

ステーション及びスプレー缶で故障と思われる症状が出た場合、まずこの取扱説明書に記載されている使用方法およびメンテナンス方法を確認して下さい。個別の症状に対する具体的な対応・処理は、以下の項目を参照して下さい。

	症状	原因	点検方法・処置
①	充填後、スプレー缶の底に液剤がにじみ出る	スプレー缶の注入バルブに異物が挟まっている	スプレー缶内の残圧を抜き、再度エア充填専用バルブで加圧して下さい。液剤がにじみ出なくなればスプレー缶の注入バルブに異物が挟まっている可能性があります。充填皿とスプレー缶の注入バルブを清掃して下さい。
		スプレー缶注入バルブの消耗	スプレー缶の底をエアブロー等で乾燥させても再び液剤がにじみ出る場合は、注入バルブ自体が消耗しています。新しいスプレー缶と交換して下さい。（有償）
		充填バルブのパッキンの消耗	スプレー缶の底をエアブロー等で乾燥させた後、スプレー缶の底から液剤が再度にじみ出ない場合は、ステーションの充填バルブのパッキンの消耗の恐れがあります。パッキンを交換して下さい。

トラブルシューティング

	症状	原因	点検方法・処置
②	充填後、充填皿の上または下に液剤がにじみ出る	充填バルブのバックシムの消耗	充填バルブのバックシムの消耗の恐れがあります。バックシムを交換して下さい。
③	スプレーの噴射圧が弱い	逆さ・斜め噴射等により噴射圧が低下した	エア充填専用バルブでエアのみ再充填して下さい。
		スプレー缶に液剤が残っている、または残圧がかかったまま充填した	充填作業はスプレー缶内の液剤とエアを必ず空にした後に行ってください。
		コンプレッサからのエア供給圧力が低下している	コンプレッサからの供給エア圧を調整して下さい。0.8～1.5 Mpa未満が最適です。0.6 Mpa以下、1.5 Mpa以上の供給エア圧では正常に作動しません。
④	噴射すると噴射ボタン周辺から液剤が漏れる	噴射ボタンの摩耗もしくは変形	噴射ボタンを交換して下さい。
		ステムの消耗と変形	スプレー缶を交換するか、担当営業にステムの修理を依頼して下さい。
⑤	スプレー缶本体に凹み等の損傷がみられる	落下などによる凹み	損傷の程度および内容量の変化が著しくなければそのまま使用できます。
		刃物などによる深い切り傷	スプレー缶を交換して下さい。
⑥	スプレー缶に圧縮エアのみが充填され、液剤が充填されない	液剤コンテナが空になっている	新しい液剤コンテナと交換して下さい。
		本システムの導入後もしくは液剤コンテナ交換後の初回使用時である、または何らかの支障で液剤供給が止まり、エアがステーション内に入った	ステーションのエア抜き・液剤充填作業を行ってください。
		液剤吸上げホースが液剤コンテナから外れている、もしくは液剤吸上げホースの吸上げ口が液面より上に位置している	液剤吸上げホースを液剤コンテナへ正しく差し込んで下さい。
		液剤吸上げホースが折れている等の支障がある	液剤吸上げホースの折れ曲がり等を確認し、修正して下さい。
		液剤吸上げホースとステーション本体の接続部から液剤が漏れる等の支障がある。	担当営業に御連絡下さい。
⑤	スプレーの噴射角度および噴射量が安定しない	噴射ボタンの磨耗もしくは変形	噴射ボタンを交換して下さい。
		ステムの消耗と変形	スプレー缶を交換するか、担当営業にステムの修理を依頼して下さい。
		スプレー缶内への異物混入	充填皿および液剤コンテナ内部を点検、清掃して下さい。液剤内への異物混入の場合は、新品の液剤と交換して下さい。スプレー缶内のパイプ、バルブが詰まっていると思われる場合は、担当営業にステムの修理を依頼するかスプレー缶を交換して下さい。

- ・ 上記の点検・処置を行っても症状が回復しない場合、担当営業に御連絡下さい。
- ・ 安全に使用して頂くため、本システム（ステーションとスプレー缶）の分解・加工・修理は弊社の指示がない限り行わないで下さい。
- ・ ステーションの分解・整備・修理を依頼する場合は、修理依頼書に必要事項を記入しFAXで弊社宛てにご連絡下さい。

お問い合わせ先 (フリーダイヤル)

0800 - 600 - 5550

support@wuerth.co.jp

ウルトジャパンは、自動車業界・建築業界向けの様々な製品を、日本全国のプロユーザーに向けてご提案しています。